

日の尾牧野の位置



野焼き前

H20年4月初旬



野焼き後

H20年7月末



→ 4. 野焼き実施に向けて準備 (H20.2~5月)

実施計画に基づき、野焼き再開のために必要な事業を実施しました。

現地調査



必要な整備実施に向けて、牧野組合、阿蘇グリーンストック、阿蘇市、環境省により実施 (H19.12月)

輪地切り



地元の人々約20名、支援ボランティア約90名が参加 (H20.2月)

野焼きの安全性確保と作業負担軽減のため整備 (環境省)



作業道整備 (H20.5月)



天地返しによる防火帯整備 (H20.5月)

→ 5. 野焼き実施 (H20.6月)

野焼き実施日は、牧野組合の判断により、炎が大きくなりすぎず安全に実施できるよう、青草が生育する6月7日としました。当日、現場では地元24名、支援ボランティア約100名が尾根毎に4班に分かれて火入れ作業を行い、麓では消防が待機するほか交通規制などを行いました。関係者間の連携による万全の体制が功を奏し、安全に野焼きが終了しました。



当日朝、牧野組合長の挨拶。阿蘇市の佐藤市長も駆けつけ、総勢約150名が参加。



古カヤが燃え煙が立ち込める中での火消し作業

来春の山菜採りが楽しみです。

野焼きをしなくなったら春先の山が茶色混じりできなくなり、ずっと気になっていました。野焼きをして山が美しくなったのが一番うれしい。ゼンマイやワラビなどの山菜も出ています。(岩下正治氏)



野焼きを終えて
支援した方々より

地元の方々の判断力、経験の深さに脱帽です。

野焼きの時には青草が50cm~1m位も伸びて、火がつかないのでは？と思いました。組合長の「火はつく」という言葉に半信半疑でしたが、見事に焼くことができ判断の正しさに感服しました。((財)阿蘇グリーンストック専務理事/山内康二氏)



野焼きの現場は猛烈な煙と炎との戦いでした。

長年放置された草原には古カヤが膝位まで堆積し、輪地切りではこれを取り除くのに一苦勞。また、足場の悪い急傾斜地での火消し作業でしたが、汗を流した後の皆の笑顔は爽快そのものでした。

(支援ボランティアリーダー/江口正義氏)



今回の取り組みが他の牧野へ波及することを期待しています。

組合長の指示のもと無事に火入れができました。事故がないよう万全の対策を考え、組合ができない部分を環境省などが対応。阿蘇市では消防団の待機を要請し万が一に備えました。

(阿蘇市農政課課長補佐/丸野雄司氏)